

科目名 成人看護学実習Ⅱ 時間割表記名 成人看護学実習Ⅱ	配当時期 3年次 単位数 2単位 時間数 90時間（12日間）	講義担当者 吉竹あゆ
事前学習内容 実習要項参照		
科目全体のねらい・授業目標 実習目的 本実習では、成人期にある患者が手術療法等により生命や身体機能を脅かされた危機状態から脱し、疾病の増悪や合併症を予防しながら、健康の回復促進と自立に向けた看護を実践する能力を習得する。 実習目標 1. 周手術期から回復期にある成人期の患者の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 2. 手術からの回復促進や合併症の予防に向けた援助が実施できる。 3. 保健医療福祉チームの一員として自覚し円滑な人間関係を作ることができる。 4. 継続看護の必要性を理解し、他部門・チーム間の連携について理解できる。		
教育目標との関連 1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する。 2. 人々が生活するうえでの健康の意味を、環境との相互作用の観点から理解する。 3. 対象の生活をよりよくするために、科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。 4. 人々の多様な価値観を尊重し、専門職業人として倫理観に基づいた看護を実践できる能力を養う。 5. 保健医療福祉制度とそれに関わる職種の役割を理解し、チーム医療を実践するための基礎的能力を養う。		
授業の流れ 本実習では、周手術期にある患者を受け持ち、看護過程の展開を通して身体的・精神的・社会的な援助の実践を学ぶ。 周手術期にある患者は、手術に伴う侵襲によって、健康状態の破綻をきたした状態であり、迅速で集中的に対応し生命を守る必要がある。また、患者の安全・安楽を保ち、合併症の予防や苦痛緩和に向けた援助を必要とする。そのため、麻酔や手術が患者に及ぼす影響を理解し、術後の回復促進と自立の促進に向けた看護を学ぶ。 手術を受けるという非日常的な出来事に対し危機的状況に陥る可能性を持つ。更に患者は重要な役割を持っていることが多く、生命の危機状態に陥ることは社会的役割の変更、経済的問題、家族の問題など様々な社会的問題を引き起こす可能性がある。周手術期にある患者の日常生活に起こりうる問題の予測と心理、社会的側面に及ぼす影響について考え生活の再構築に向けた援助について学ぶ。 以上の内容について、周手術期にある患者を受け持ち看護過程の展開を次のいずれかの診療科病棟（腎・泌尿器科病棟、外科病棟、整形外科病棟）で実践する。また、手術室見学実習では受持ち患者の手術に同行し、手術における生体侵襲・麻酔侵襲や手術室の安全対策、病棟・手術室間の連携について学ぶ。さらに実習期間内に学内日と事例検討会をもうけて上記の授業内容を学ぶ。		
評価 ルーブリックに沿って評価する。		
使用するテキスト ①系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 ②系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 ③系統看護学講座 基礎看護学 臨床看護総論 医学書院 他 既習のテキストを活用する		